

議会広報 常任委員会



見て、聞いて、感じたことは
すぐに実行



7月5日、名古屋都市圏内の岡崎市に近い幸田町に広報委員他7名で訪問

愛知県は広報編集のレベルが高く県内クリニックで腕を磨いている先進地でもある。

7年前にも研修に来ているが、当時に比べて今の松前町議会だよりは、どうなんだろっ。

事前を送付した93号の気になる点の指摘は、翌日の東京でのクリニックと共通するところが多かった。

★以下すぐに取り組めそうところ・・・
見出しは14文字以内でインパクトのある表現を

◆次回開催の定例議会の日程を記載し、議会への関心をひく

◆ブルー色は避けなるべく暖色使いを

◆インデックスの採用

◆一般質問ページも本文を問答形式に(一問一答のリアル感)



研修後、みんなでパチリ。(幸田町議場にて)

★ページをめくってみたい
広報誌を作るには・・・

7月6日、東京都全国町村議員会館に西日本の議会広報編集委員約100名が集合

講師の芳野政明氏から広報のイロハを聞く。

議会広報は、議事公開から行政監視、政策提案の議会の諸活動を伝え、住民とのコミュニケーションの役割を担うもの。



★事前送付の7町村の議会だよりがクリニックの洗礼に：
松前町議会だより 93号から

◆表紙の人物にコンテンツがかぶって読みにくい。上の空間処理をうまくすれば解決する。

◆当初予算の見出しやタイトル付け方に工夫を。数字は小さくし、行

政広報との違いを明確に。

◆一般質問のタイトルは短く。インパクトを強く。

◆研修報告は、見出しやリードの使いようでもっと読みやすくできる。

◆傍聴席、町民の声、まちの話など住民を巻き込んだ企画はとても良い。賛否表の内容に工夫を。

そこが行政広報とは異なる点だ。

特に予算、決算の情報出し方は、その視点の違いを明確に表現すべきだ。

講師のチェックポイントは、「読者をひき付け、わかりやすく読みやすいか」



まだまだ努力すべきところがついていく。

次への目標に向けてがんばる決意を固めた。

7月7日、臨海広域防災公園防災センターを視察。大地震の疑似体験を。

